

東 産 建 - 1575

平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

秋田県東成瀬村長 佐々木哲男



今後の道路行政についての意見・提案について(回答)

平成20年9月19日付け、国道企第37号でご依頼のありました標題  
の件につきまして、別紙のとおり回答致します。

○災害等緊急時における国直轄での県管理国道の整備復旧を推進してほしい。

現在、地方分権が推進され、国道・河川の整備及び管理を国から県に移譲されるやに伺っている。しかしながら、本年6月14日の岩手・宮城内陸地震によって寸断された他県を結ぶ県管理国道が、当村に連絡するものだけでも342号・397号・398号と3本もありながら、災害から5ヶ月を経過した今も、県境を越えての全面復旧する見通しは立たない状況にある。幸い、秋田県内分のみの復旧は見通しがついているが、隣県の岩手・宮城では県境までの復旧のめどは不明である。

県管理とはいえ、こういった国道は県境を越えてこそ使命が果たされるはずなのに、まさしく横の連携がとれていないとしか思われてならず、このような状態で国道の整備・管理が分権によって進められても、狙い通りに地域における課題が改善されるとは到底考えられない。

従って、災害復旧等緊急の場合は、県管理の国道や河川ではあるが国直轄による対応で、広域的な形での復旧を行うことで道路の機能を迅速に回復させることができる内容を盛り込んだ法整備を提案したい。

○地理的条件による地域間の交流・物流が不便な区間を早期に改善し、地域格差や経済格差を是正してほしい。

当村のように地理的条件により交通の便が悪い地域が改善され、安全な通年通行が確保されれば、地域格差が解消され物流や交流人口に弾みがかかり、企業誘致による雇用の場の創出や観光客の誘客にもつながり、地域振興が図れる。

また、東北中央自動車道と秋田県を結ぶ国道13号の交通量は非常に多いが、山形新幹線は新庄駅からの延伸が厳しい状況であり、自動車による物流並びに人的輸送の依存度が必然的に高くなり、高速化が強く望まれている。

このようなことから、経済交流でも重要な路線で首都圏とつながる貨物輸送の利用率が高い、幹線道路の冬期交通を考慮した早期整備を要望したい。

○現状

秋田県の南部に位置する当地域は、岩手県と宮城県に接しているが、11月から5月までの冬期間は両県を結ぶ国道342号、397号、398号は通行不能で袋小路の状態となる。また、本年6月に東北北部を襲った岩手・宮城内陸地震により、当村を経由する主要道路が全面通行止めとなり、一部国道の復旧は3年後の2011年とされている。この袋小路状態は周辺観光産業等に大きな痛手となっており、その影響は計り知れない。

また、村道としては集落内を中心に幅員が狭小な連絡道路が点在しており、冬期間は緊急自動車が侵入しにくい箇所も多く、住民が不安を抱えている。

○課題

地震災害の復旧と合わせて、本地域と太平洋側を結ぶ広域幹線道路の通年通行の早期確保を図る必要がある。しかし、現実的には豪雨や豪雪、そして地震などの災害に弱さを露呈しており、国民の安全安心を図る上でも早期にその対応を迫られている。また、隣町とつながる唯一の国道が災害等で寸断された場合、通勤・通学及び生活路線喪失の影響は計り知れず、通年通行が出来る迂回道路の確保が急務とされている。物流と文化的交流、更には地域の活性化につながる観光産業の発展と生活道路の確保に本道路は必要不可欠であり、通年通行は地域住民の悲願でもある。

また、市町村道における狭小な連絡道路は本来の道路機能を十分に果たさないだけでなく、災害・救急の際の迅速な救助活動や患者搬送に支障をきたす恐れがあり、住民生活における安全・安心を確保するために連絡道路の幅員拡幅も不可欠である。

当地域は風光明媚な栗駒国定公園を有しており、この地域を周遊できるそれぞれの国道は、広域観光路線として新緑から紅葉の時期までシーズンを通して多くの観光客で賑わっている。また、平成29年度には観光の一翼を担う「成瀬ダム」が完成する予定であり、首都圏を巻き込んだ岩手、宮城、山形と3県をつなぐ新たな観光客等の増加も見込まれる。これは地域経済の発展にも大きく寄与するため、その波及効果にも期待するものであるが、交通量が増えた場合、特に集落内の狭小な箇所などは危険であり、地域住民の安全を確保するためには冬期交通を考慮した道路整備が必要となってくる。

また、狭小な連絡道路は災害・救急時の活動に支障をきたすため、こういった課題を解決するためには、除雪体制の強化だけでなく、幅員拡幅といった根本的な整備が必要であり、幹線道路の新規開設や整備だけでなく、こういった既存生活道路の改良整備をコアとした形での市町村道整備のための制度を国レベルで創設して推進していくことが求められる。

なお、これからの道路整備は、本来の交通機能だけを満たせばよいという無機質なものではなく、花壇の整備や街路樹の植栽等工夫を凝らし、その地域ごとの景観と一体化したものとなるように推進していくことが求められる。また、ソーラーシステムによる街灯の整備等といった自然に配慮したエネルギーの利活用に行政が率先して取り組み、このことを公共性・公益性がもっとも高い社会資本の一つである道路でアピールしていくことも大切である。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

秋田県 東成瀬村

| ○重点事項           | ○代表事例                                 | ○期待する効果や評価等                                                                                                                                                                                                          | ○その他                                                                                                            |
|-----------------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・地域活力の向上</p> | <p>国道342号狐狼化地区における雪寒事業による雪崩防止柵の設置</p> | <p>国道冬期閉鎖解除が設置前と比較して3週間も早まり、村内の主要な観光資源である栗駒国定公園や栗駒山荘が5月連休前にオープンできることで、観光客数の増加をもたらし、また、観光客等の増加により村内の小売業の売り上げも設置前と比較して1.3倍に伸び、村内経済へのプラスの効果をもたらした。</p> <p>また、村民の雇用の大きな受け皿でもある栗駒山荘の営業日数の増加が可能となり、これにより地域雇用の創出にも貢献した。</p> | <p>同じ栗駒国定公園に位置し、国道342号・398号を結ぶ「県道仁郷大湯線」にも雪崩防止柵を効果的に設置することで、同路線も同時に冬期閉鎖解除が可能となり、西栗駒エリア全体としてのより大きな経済効果が期待できる。</p> |